

チャレンジとチャンス

バイアスロンの日本代表として冬季五輪に二大会連続で出場した田中友理恵さんが、先日市役所に引退を発表しておられたので、その後の進路のご報告だとばかり思っていました。開口一番の言葉に驚きました。「競技種目を変えて、次期五輪出場をめざします！」と言うのです。

田中さんは自衛官を退官後、民間企業に再就職されましたが「夢を追い続けたい」と、2026年のミラノ・コルチナダンペッツォ冬季五輪から新種目となる「SKI MO」と呼ばれる山岳スキー競技に転向して頑張りたい、と熱意を私に。初めて耳にしたSKI MOは欧州では人気で、コースはスキー場ゲレンデや時にはアルプスなどの険しい山の頂をめざし、シール（滑り止め）を装着したスキーで駆け上がった（またはスキーを担いで登ったり）、急斜面を滑り降りたりを繰り返す、新しい競技なのだとか。すでに日本代表に選ばれ、令和5年2月の世界選手権に出場が決まっているそうです。

いつの間にか！と驚きつつも、応援を約束しました。日本人初の未開の競技へ臨むチャレンジ精神。それをチャンスに変え、パオニアたらんとする姿に感動を覚えました。

ソチ五輪銅メダリストの小野塚彩那さんもそうでした。彼女がめざしたスキーハーフパイプも、ソチから新種目となったものでした。最有力候補と目されていた基礎スキー日本一の期待を投げ打つての挑戦だったと聞かされました。市内にはエフエム雪国さんに就職し、会社の理解の中で仕事と練習を両立させて次期五輪をめざしている、クロスカントリー選手の羽吹唯人さんもいます。

先日行われた市スポーツ協会の令和4年度スポーツ表彰式典。過去に例をみない表彰者数で、みなさんの活躍ぶりが実によくうれしかった。はじけたような勢いを感じるのには私だけではないはず！チャレンジがチャンスを呼び込む。それはスポーツだけではない、と教えてくれたものもあるなあ。

シリーズ
第115回

国際大学留学生

お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

トーゴ共和国 ビレナム プラニティさん

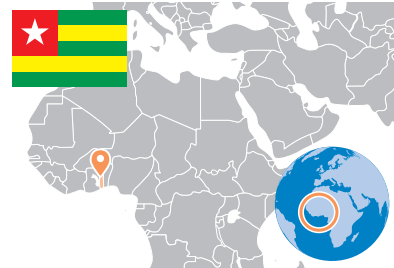


私の国はこんなところ

トーゴは西アフリカに位置し、ブルキナファソ、ベナン、ガーナに囲まれたフランス語圏の国です。アフリカのアイデンティティの1つと考えられているアフリカ布ビジネスで有名です。アフリカ布は冠婚葬祭の儀式をはじめ、シーツ、カーテン、エプロン、バッグなどの日用品に使用され、アフリカ各国に輸出もしています。西アフリカ地域で最初の億万長者は、1960年代からアフリカ布ビジネスをけん引してきたトーゴの女性たちです。彼女たちは「ナナ・ベンツ」（メルセデス・ベンツ車を持った女性）と呼ばれました。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼での印象深い体験は、日本文化です。謙虚さ、礼儀正しさ、優しさをもつ素晴らしい文化に出会いました。機会があれば日本人宅に滞在してこの文化についてもっと学びたいです。母国の日本食レストランですしを食べましたが、おいしいと思えませんでした。来日して食べたすしはとてもおいしく、大好きになりました！ラーメン、キムチライス、たこ焼きも食べました。今では日本の食事がとても好きです。



編集後記

新米の季節になると、市内ではさまざまな秋のイベントが行われます。今年で8年目となる本気井キャンペーンも始まり、連日多くの飲食店でにぎわいを見せています。イベントやふるさと納税などを機に、より多くの人に市が誇る南魚沼産コシヒカリを味わってもらえることを期待しています。(M. A)

今月の表紙

10月11日(火)、めぐみ野こども園の水田で年長児による稲刈りが行われました。

園児たちは春に植えて大きく育った稲を、先生と一緒に鎌で刈り取ってはざかけのパイプにきれいに並べ、収穫の喜びに笑顔を見せていました。

市民の動き 令和4年9月末日現在 ()は対前月比

●人口 54,085人(+86)／男26,470人(+55) 女27,615人(+31) ●世帯数 20,256戸(+119)